

ことばかけと見ることを意識した造形活動の展開

- 幼・小・中による合同授業を通して -

齊田 聖美* 服部 文香* 金丸 恭浩**
吉行 順一** 岩室 美鈴*** 幸 秀樹****

Development of Formative Activity Focusing Teacher Talking and Student Seeing

SAITA Kiyomi HATTORI Ayaka KANEMARU Yasuhiro
YOSHIYUKI Jyunichi IWAMURO Misuzu YUKI Hideki

1. はじめに

小学校図画工作科の学習指導要領では、教科の目標として新たに「感性を働かせながら」という文言が付け加えられた。これは、子どもの感覚や感じ方、表現の思いなどを一層重視することを明確にするために示されている。子どもの感性を高めていくためには、教師のことばかけや共通事項に示された形や色など対象の特徴をしっかりとらえることが非常に重要になってくると考える。

これまで、本学の附属幼稚園・附属小学校・附属中学校の造形・図工・美術の担当教諭と大学教員が連携し、共同研究を進めてきた。連携のポイントは、子どもたちが過去の体験を生かせる学びの場を提供すること、子どもたちが自分なりの表現をつくりだす資質や能力が育成されるよう配慮することである。具体的には、以下の三つを連携のポイントとした。

- ・12年間を通して四つの能力が育てられるような題材の設定
- ・一貫した学び方としての鑑賞の活動の設定
- ・小学校と中学校間での合同学習やT.T.の導入

一つ目のポイントは教育課程の再編に関するものであり、二つ目と三つ目は指導方法に関するものである。一つ目に示した「四つの能力」とは、幼・小・中の学習指導要領解説を通して根底に流れる能力を探り、具体的な子ども像として私たち共同研究グループ（以下、図工・美術共同研究グループ）で整理したものである。造形活動を通して、幼・小・中の12ヶ年で育てたい四つの子ども像として以下のようにまとめた。

- ・豊かな感性をもった子ども
- ・体験を生かしてイメージすることも
- ・材料を生かして表現することも
- ・感じたことを伝達する子ども

*宮崎大学教育文化学部附属幼稚園

**宮崎大学教育文化学部附属小学校

***宮崎大学教育文化学部附属中学校

****宮崎大学教育文化学部

この四つの子ども像をもとに年間指導計画を実施しながら修正を加え、指導のあり方を研究してきた。そして研究の焦点化のために、美術教育の多様な表現・鑑賞活動を「平面に表す活動」、「立体に表す活動」、「見る活動」等の視点に整理し進めてきた。

本研究においては、四つの視点のうち「感じたことを伝達する子ども」に焦点をあて、造形活動、鑑賞活動における言語活動のあり方について着目した。

研究計画としては、鑑賞における言語活動のあり方やことばかけについて理論研究を行うとともに、実際の授業においてどう活用できるのかを確認し、合同授業を行い、造形に対する気づきをもたせる手だてやことばかけのあり方について検証していく。本論においては、合同授業の実践を通して教師のことばかけと子どもたちの鑑賞眼の育成について成果と課題をまとめる。

2. 合同授業による子どもの変容

図工・美術共同研究グループでは、今まで合同授業を実践し、教師のことばがけの重要さと異年齢の子どもたちの交流によることばの関わりの拡がりを確認することができた。例えば、幼稚園年長と小学校1年生という年齢の近い子ども同士の造形活動を行うことで、互いの思いを交流しながら表現することが可能となった。さらに、小・中での乗り入れ授業を行うことで、中学校美術教諭の専門性を生かしながら、児童の造形意識を高めることも可能になった。

以下に授業実践の一例を示す。この授業は、附属幼稚園裏のピオトープを活動場所としての合同授業の実践である。対象は小学校6年生であるが、鑑賞会において幼稚園児と交流し、中学校教諭とのチームティーチングで行われる。この授業の設定は、ピオトープの自然環境を生かしながら、木や土、砂、葉などの自然物や教師が準備したスズランテープなどを使い造形活動を楽しむ造形遊びである。この授業においては、児童が中学校の美術教諭とともに活動を行い、アドバイスをもらう場面、幼稚園児との鑑賞会の場面において、ことばかけと見ることの研究の視点の検証をねらっている。合同授業を終えた授業者の反省については、以下の点が上げられている。

ことばがけについて

- ・ことばがけの重要さに気がついた。うまくいったことばかけと子どもの姿を整理していくとよい。
- ・子どもの活動のどの段階でことばかけをするべきなのか、またどのようなことばかけをするべきか、ことばかけのタイミングとその内容の難しさを感じた。

ことばがけの分類については、附属小学校がまとめた平成21年度の研究紀要¹⁾に詳しく述べられているが、「指導的ことばかけ」と「共感することばかけ」に整理されている。

自分らしい発想や表し方を引き出すことばかけ

分類	内容
指示	学習のきまりとして、全員に共通理解させる。(材料、場、用具の使い方など)

明確化 具体化	子どもの発言を作品の中の形や色などに返していく。 子どもの意見を、整理して言葉に表すことで具体化していく。
助言	発想が浮かばなかったり、用具の使い方が分からなかったりする子どもを支援する。自分なりの活動をしている子どもに、もっと豊かな活動を促していく。

子どもが自信をもって活動することができることばかけ

分類	内容
共感 賞賛	子どもの発想や発言、表し方のよさを認め、さらに伸ばそうとする。

ピオトープにおける本活動が「並べる」ものだったので、共感することばかけがしやすかったという教師の振り返った感想である。しかしながら子どもの活動の意図をくみ取れないと共感することが難しいことも確認された。逆に助言はしなかった方がよかったのではないかという戸惑いの反省も聞かれた。その他の振り返りの考察は以下の通りである。

・「ことばかけ」は、子どもの思いに乗ったもの（共感・賞賛）にしよかった方がよいのではないか。

・共感することばかけをするためには、教師が子どもの思いを知らないといけないのではないか。まずは教師が子どもの思いを探り、そして「具体化」しながら「共感」することばかけをする方がよいのではないか。

・「さぐる」ことは、共感するための手だてになりうるのではないだろうか。

・教師が意識して、子どもが「何をつくりたいか」をさぐり、そのつくりたい思いに共感するとよいのではないか

ことばかけの内容については、共感的なものが望ましいのではないか、共感的なことばかけができるためには子どもがつくりたいものを探る必要性が確認された。ことばかけのタイミングについては、課題として残された。

次に合同授業を実践した効果として、以下のような振り返りが確認された。

・完成した作品を見るだけでなく、小学生とともに作品をつくる過程を見る機会となり、園児にとって刺激になりよかった。

・一緒に活動したことで子どもの変容の様子を意識してとらえることも大事だったのではないか。例えば、園児が小学生と経験したことを真似してみたり、また他の友達にしてみせるなど、活動を通して子どもが自信をもったり、造形遊びに楽しみを持ったりする様子を見ることができたのではないか。

・園児と他の学年の組み合わせで、また違った子ども同士の関わり合いが期待できるのではないか。

・子ども同士の関わり合いが活発な共同制作にするためには、一緒に活動できるような幼・小の組み合わせがよいのではないか。共同学習には、友達の思いやできることを知ったり、自分の思いやできることを友達に見せたりなど、相手を意識した関わり合いを通して、お互

いのよさを引き出し高めあうことができるというよさがあると思われる。

- ・園児と小学生の組み合わせを変え、関わる様子の違いを見ていくとよいのではないか。
- ・年長児と小学6年生だと、6年生がリードしてしまいお互いの思いやよさを引き出しながら活動するということは難しくなるのではないだろうか。園児と小学生の歳の差があまりない方がよいかも知れない。
- ・相手のしていることを見たくなる、また自分のしていることを見せたいくなる、共同学習のよさが出るようなグループ構成がよいのではないか

以上のように、今後の展開の可能性として、子どもがお互いのよさに気づき、それを真似したり認めたりできるような幼・小のグループ構成による造形活動を設定すること、合同授業に参加した後の幼・小の子どもの変容を記録すること、園児が小学校に進み合同授業に参加した際に、教えてもらう側から教える側になる変容をとらえるという視点が確認された。

3. 効果的な異年齢共同学習の提案

これまでの実践の反省を生かし、さらに実践を積み重ねていくことを目指し、幼稚園・小学校間、小学校・中学校間の合同授業を提案、実施した。具体的には、先ず附属小学校5年生で「線を集めて」という実践を行った。授業内容は、線状の材料を組み合わせることができる形の面白さや美しさを感じながら、思いのままに立体に表すことで、作りだす喜びを味わうようにすることを主なねらいとして本題材を設定した。活動としては、教師がわりばしでつくった立方体を見せ、どんな形に見えるか話し合う事から始め、身近に見られる立方体に子どもたちは様々なものを想像していく。わりばしや小枝、ストローなどを主材料として、何本も組み合わせ立体的な作品に表させた。

その小学校の子どもがつくった作品を使い附属幼稚園児による鑑賞会を行った。教師の「何に見える？」と言うことばかけから、園児は自由に自分の考えを話していき、幼稚園児は、形や色から感じたことを、自分の体験をもとに思いのままに話をしていた。

次に小学校の子どもがつくった作品で、附属中学校の生徒による鑑賞会を行った。その際、作品にタイトルをつけるようにし、「祭り」や「思春期」など、中学生らしいタイトル名が多く見られた。作品の見た目だけでなく、作品の形や色から訴えかけて来るメッセージを捉えながらの発言が確認できた。

最後に、つくった小学生本人達に幼稚園での鑑賞会の様子をビデオで見せた。本論では、附属小学校における実践、附属中学校における鑑賞会の資料を示す。学習指導案は、以下の通りである。

1) 授業実践「線を集めて」(小学校第5学年)

第5学年 図画工作学習指導案

授業提案者 吉行 順一

1 題材の目標

A 表 現	【造形への 関心・意欲・態度】	○ 線状の材料を組み合わせて、つないだりしながらできる立体の形に関心をもち、進んで表そうとしている。
	【発想や構想の能力】	○ 形の面白さや美しさを考えながら、線状の材料の特徴を生かして自分の思いに合った形に表すことができる。
	【創造的な技能】	○ 線状の材料を組合せ方やつなぎ方を試しながら、工夫して表すことができる。
	【鑑賞の能力】	○ 作品を見合いながら、線状の材料を使って表した形の表現の意図や特徴などをとらえ、伝え合うことができる。

2 題材名

線を集めて

3 題材について

本題材は、線状の材料を組み合わせてできる形の面白さや美しさを感じながら、思いのままに立体に表すことで、つくりだす喜びを味わうようにすることを主なねらいとしている。

線状の材料は、立体的に組み合わせることで、平面では表せない形が生まれ、奥行きを感じることができるものである。また、重ねることで方向感が出せたり、組み合わせ立たせることで、パフンスをとったりもできる。本題材の活動は、線状の材料の特徴を生かして立体に表すよさを知ることから始まる。そして、線状の材料を組み合わせ、つなぎ方を工夫しながら、思いに合わせて表していく。

本題材を学習することは、奥行きを考えながら、線状の材料を組み合わせ、立体に表すことをとおして、自ら造形的な賞賞や能力を高めることにつながり、意義深いといえる。

4 子どもについて

本学級の子どもは、材料や友達などのかかわりをおして、造形活動に意欲的に取り組んできた。

第4学年の題材「ひもでつくろう」では、ひも状の粘土の形を自由に变化させながら発想を広げ、立体に表すことができた。また、第5学年の題材「想像の世界へレッツゴー」では、自分の写真からイメージを広げ、絵に表している。自分の思いを表すために必要な描画材を選択したり、表し方を考えたりしながら、イメージに合った形や色で表すことができた。この時、表現方法について、学習資料などの掲示物を見ることから、自分のイメージに合った方法を選択し、造形活動に取り組んでいる。

これまでに、造形活動の中で、材料の組合せを考えて表し方を工夫したことはある。しかし、奥行きを考えながら線状の材料を組み合わせて、立体に表す活動に取り組んだ経験は少ない。

5 生きる力を育むための手立て

段 階	生み出す	○ 平面と立体に表した形の違いについて話し合わせることで、線状の材料を使って立体に表そうとする意欲を高めることができるようにする。また、簡単な材料を用意し、組合せ方を試させることで、表したいもののイメージをもてるようにする。
	挑む	○ 前時の子どもの作品を提示したり、子どもの発想を板書したりすることで、線状の材料を使って表したいもののイメージを広げられるようにする。また、子どもの発想を認める言葉かけをすることで、自信をもって表すことができるようにする。
	生かす	○ 作品のイメージにあう場所に飾らせて鑑賞会を行うことで、線状の材料で表した形の意図などを話し合うことができるようにする。その際、形の面白さなどを互いに伝え、認め合わせることで、自分の思いを表すことのよさを感じられるようにする。

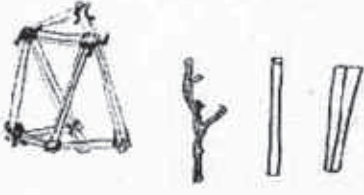
6 生きる力を育むための指導計画 (5時間)

種	主な学習活動及び学習内容	教師のかかわり	具体的な評価規準
生 み 出 す	1 本題材の学習について話し合う。 <1時間> ○ 参考作品を見ての話し合い ○ 題材のめあて 奥行きを考えながら、線状の材料を組み合わせて、立体を表そう。	○ 平面と立体に表した形の違いについて話し合わせることで、線状の材料を組み合わせて立体を表そうとする意欲を高めることができるようにする。 ○ 教師の参考作品を見せ、奥行きについて考えさせることで、立体的なものをイメージすることができる。	○ 線状の材料を組み合わせて立体を表すことに関心をもち、活動への意欲を高めている。 (関・意・傾)
	(1) 2 材料の組合せ方を試しながら表したいもののイメージをもつ。 ○ 材料を使った試し	○ わりばし、ストロー、タイを用意し、組合せ方を試させることで、表したいもののイメージをもてるようにする。	
挑 む	3 材料の組合せ方を工夫しながら立体を表す。 <2時間> ○ 線状の材料の選択 ○ 同じ形の組合せ ・ 三角すい同士の組合せ ・ 立方体同士の組合せ 等 ○ 違う形の組合せ ・ 三角すいと立方体の組合せ 等 ○ つなぎ方の工夫 ・ 十字に結ぶつなぎ方 ・ タイで結ぶつなぎ方 等	○ 前時の子どもの作品を提示したり、組合せ方の発想を板書したりすることで、表したいもののイメージを広げることができるようにする。 ○ 線状の材料を選択できる材料コーナーを設定し、学び合いを生むようにすることで、組合せ方の発想をふくらませることができるようにする。 ○ 子どもの発想を具体化したり、共感したりする言葉かけをすることで、イメージを明確にし、自信をもって表すことができるようにする。	○ 線状の材料の特徴を生かして、奥行きを考えながら、材料を組み合わせている。 (発想・構想)
	(3) 4 材料を工夫した装飾などをする。 <1時間> ○ 材料を工夫した装飾 ・ 垂らす装飾 ・ 巻き付ける装飾 等	○ つなぎ方についての学習資料を必要に応じて提示することで、自分の思いに合った線状の材料のつなぎ方を選択することができるようにする。 ○ ひもやタイなどを装飾する際の飾りとしてつないでもよいことを例示することで、さらに発想を広げることができるようにする。	○ 自分の表したい形に合わせて、線状の材料のつなぎ方を工夫しながら表している。 (技能)
生 か す	5 校内の作品のイメージに合う場所に飾り。互いの作品を見合う。 <1時間> ○ グループでの鑑賞 ○ 図工ノートへの記入 (1) ○ ふりかえり	○ 自分の作品のイメージにあう場所に飾らせて、鑑賞会を行うことで、線状の材料で表した形の意図や特徴などをとらえることができるようにする。 ○ 形の面白さや美しさなど、互いに伝え、認め合わせることで、自分の思いを表すことの上さを感じるができるようにする。	○ 自分の作品のイメージに合う場所に飾りながら、それぞれの思いを伝え合っている。 (鑑賞)

7 本時の目標

- 自分の思いに合った材料を選択し、奥行きを考えながら、線状の材料の組合せ方を考えることができる。

6 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり	用具準備物
<p>1 本時の学習内容について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時学習の想起 ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 思い合った材料を選び、おく行きのある形の組合せ方を考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の子どもの作品を提示したり、組合せ方の発想を板書したりすることで、線状の材料を使って表したいもののイメージを広げることができるようにする。 	学習計画表 子どもの作品
<p>2 本時の学習の進め方について、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の流れの確認 ○ 用具・材料の確認 ○ 時間の見通し 		杖 わりばし ストロー 麻ひも 糸 毛糸 タイ はさみ カッターナイフ
<p>3 思い合った線状の材料を選択し、組合せ方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 線状の材料の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ わりばし ・ 杖 ・ 竹串 ・ ストロー 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 線状の材料を選択できる材料コーナーを設定し、子どもの学び合いを生むようにすることで、材料の特徴から組合せ方の発想をふくらませることができるようにする。 	学習資料
<p>4 奥行きを考えながら、材料の組合せ方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ形の組合せ <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角すい同士の組合せ ・ 立方体同士の組合せ 等 ○ 違う形の組合せ <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角すいと立方体の組合せ ・ 直方体と立方体の組合せ 等 ○ つなぎ方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 十字に結ぶつなぎ方 ・ タイで結ぶつなぎ方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 板書をきっかけに、子ども同士で組合せ方について話し合えるようにすることで、友達が発想のおもしろさに気付いたり、アドバイスをしたりできるようにする。 ○ 子どもの発想を具体化したり、共感したりする言葉かけをすることで、イメージを明確にし、自信をもって表すことができるようにする。 ○ つなぎ方についての学習資料を必要に応じて提示することで、自分の思いに合った線状の材料のつなぎ方を選択することができるようにする。 	学習資料
<p>5 本時の学習についてふりかえり、次時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体でのふりかえり ○ 次時での見通し 		

9 本時の評価規準

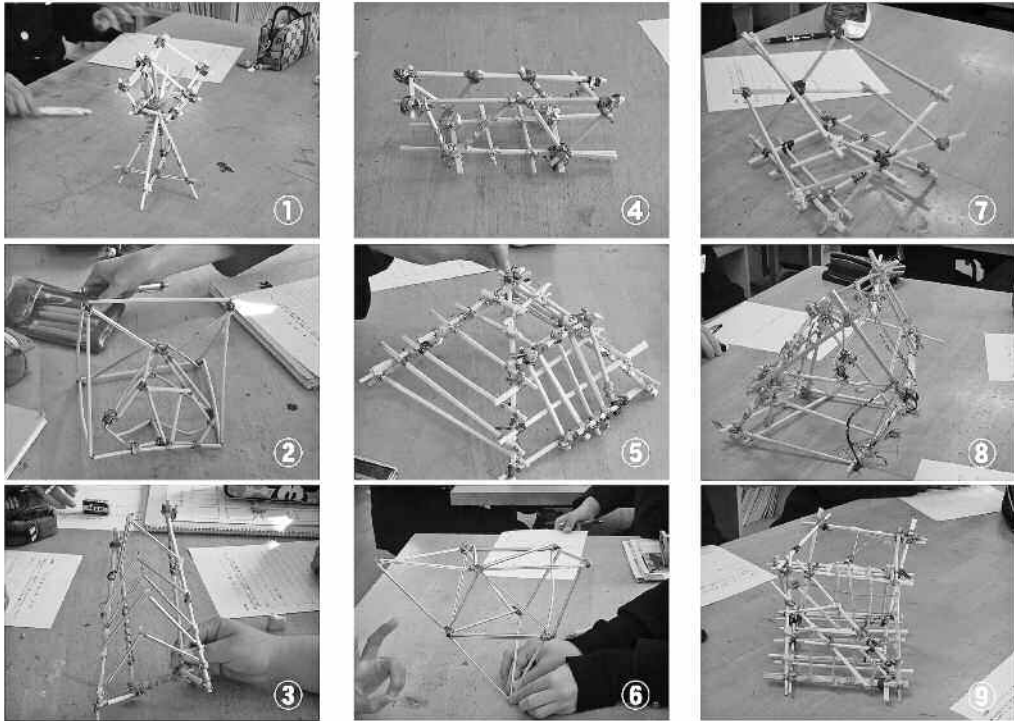
- 線状の材料の特徴を生かして、奥行きを考えながら組合せ方を考えている。

(発想や構想の能力)【観察・デジタルカメラ・履歴表】



線状の材料を組み合わせていくと、奥行きを表したり、バランスを考えて立たせたりできるぞ。友達のアイディアを見たり聞いたりしていると、表したいもののイメージも広がってきたぞ。

実際に児童によって作成された作品は以下に一部（9作品）を示すが、この作品を中学校の生徒に見せ、タイトルを付けてもらった。



2) 美術鑑賞 ~ 中学3年生が小学生の作品を鑑賞して ~ 作品

タイトル『祭り』

・全体的に色とりどりでカラフルだったので、にぎやかな感じがすごく伝わってきた。鮮やかな色が多くて、明るく元気な雰囲気が、夏の祭りの雰囲気と似ていると感じた。

タイトル『1年の楽しみ~夏~』

・見た目が「太鼓」に見えた。作者は夏が好きで、夏にあるお祭りに何か思い出があるのではないかと感じた。

タイトル『情熱』

・いろんな色を使っていて華がある。土台がしっかりしていて、上が大きくドンときているような力強い感じが出ている。

作品

タイトル『テント』

・片側だけ棒が組んであって入り口みたいになっているから、見た目がテントに見える。

・上の辺りが天井みたい。細かいところまでいねいに作られている。

タイトル『心』

・下に土台があり、ピラミッドのように上に立てていくことにより、成長していく心表現している。中央に集中していることから、その位置が現在の自分を表していると思う。
・土台を多く作ることで、まだ不安定な心を表していて良いと思った。両脇に新しく2つ出ていることで、まだ広がっていかこうとする様子が感じられる。

作品

タイトル『思春期』

・少し力を加えただけで、倒れたり形を変えてしまう作品と、ちょっとしたことで傷ついてしまう多感な思春期の心とを合わせて考えた。いろんな面をモールや色のあるストローで飾っているところも、他人に心を閉ざし本当の自分を隠しているようだ。

タイトル『ツリー』

・緑や赤を多く使っているところと、縦に長く立っているところからツリーのように見えた。ストローの付け方も葉っぱのような感じがした。

タイトル『聖剣』

・よく見ると剣のように見えてかっこいいと思った。人によって見え方が変わってくるので興味深い。

タイトル『未来への架け橋』

・上へ登っていきような感じが出ていて、これからの未来へのはしご、架け橋のように見えた。不規則に作られているのでユーモアがある。

タイトル『クリスマスツリー』

・カラフルな色使いで明るい。ストローで作られている尖っている部分が、ツリーの一番上のように見えた。ただの割り箸が赤や青でくるまれて華やかになっているのがいい。

作品

タイトル『虹の架け橋』

・6色のひもと木の1色で7色を使っている。初め見たときに橋のように見え、自分の未来の架け橋になっていると思った。

タイトル『レインボーブリッジ』

・カラフルな色で虹を連想した。しっかり組み立てていて針金を巻いて工夫しているのも良かった。ただの橋の形にするのではなく、少しよじれた形にしているのがいい。

タイトル『未来への橋』

・いろんな色の針金が、今までの嬉しいことや悲しいことを表しているみたいに見え、そこからまた未来へ続いていくように思えた。

作品

タイトル『おこのみやき』

・いろいろな色を使ってにぎやかでおこのみやきのような楽しいイメージにぴったりだと思った。縦と横の線がおこのみやきのマヨネーズのようだった。

タイトル『UFO』

・実は、くるくる回り宇宙から着地してしまった宇宙船。色が付いて華やかなところは、宇宙からきた文化の高さを表している。見ている人が楽しくなる作品。

タイトル『牢屋』

・割り箸を縦や横に組み立てていて、どこからも出られない感じがする。

タイトル『ある夏の日...午後4時...』

・エジプトのピラミッドを思わせるその形から、内部に何かを秘めている建物のようなものを連想した。しっかりと組まれたその構造は、草で編まれた夏の日の秘密基地のようで、夏も終わりに近い頃の、子どもたちが宿題に追われてもう誰も居ない少し淋しげな秘密基地に見える。

作品

タイトル『未完ジャングルジム』

・ストローやモールを使って組み立てていて、ジャングルジムみたいだった。まだ不安定で、未完成な感じがする。

タイトル『ジャングルジム』

・複雑な感じで組み合わせ方を工夫しているところがいい。

タイトル『星座』

・ストロー同士をカラフルな針金のようなもので留めていて、キラキラ輝いている星みたいだし、星同士がつながって星座みたいだと思った。

タイトル『山』

・三角形を上手に組み合わせている。カラフルなストローやモールを使っていて、見ているだけで楽しくなれる。

作品

タイトル『狭き門を通る』

・割り箸がたくさん交差している方を下にして上から見ると、何か門があるように見えて、そこにグルグル巻きの光る針金がある。あまり見たことが無い形で、なかなか理解できないところにこの作品の深みがあると思った。

タイトル『ひなたぼっこ』

・小学生がジャングルジムに登ってみんなでひなたぼっこをしている様子が想像できた。ジャングルジムの細い鉄棒に並んで座っていて、仲が良い感じがした。

タイトル『観覧車』

・前から見ると観覧車のようになっていて、とても夢がある。たくさん色を使ってカラフルで良い。

作品

タイトル『我が家はクリスマス!』

・割り箸の作りが家に見えて、赤や緑のひもやストローがクリスマスの飾りつけのように見えた。モールも様々な色を使っていて、イルミネーションが表現されていると思う。クリスマス

を待ち遠しく思っている子どものいる家の雰囲気が出ていてとてもいい。

タイトル『秘密基地のクリスマス』

・毛糸を割り箸に巻きつけたりストローの中にモールを通したり、工夫がたくさんある。安定感の無さやアンバランスなところも、逆に手作り感があふれていると感じた。

タイトル『クリスマスの子どもたち』

・黄緑色と赤の毛糸が目立ったので、クリスマスを連想した。カラフルなモールがイルミネーションのようで、サンタからのプレゼントを心待ちにする子どものうきうきした気分を表しているのかなと思った。

タイトル『イブの夜に...』

・ぶらさがっているモールをくっつけたものは、クリスマスリースのように見えた。あえて全部結んだりくっつけたりするのではなく、ところどころ外して必要な部分だけ留めているのが面白いと思った。見る方向を変えるとまた違った雰囲気に見えるのもいい。

作品

タイトル『楽しいアスレチック広場』

・2本の割り箸に互い違いに付けられた割り箸。カラフルなゴムやキラキラしたモールなど、いろいろな工夫がされていて面白い作品だと思う。どこか子どもの遊び場のような雰囲気を感じてタイトルを決めた。

タイトル『産業革命』

・ひもや割り箸が複雑に重なり合って、ひとつの物体として出来上がっているの、いろいろな過程を積み重ねて革命的に発展した産業革命を思い浮かべた。

タイトル『がんばろう宮崎』

・宮崎は噴火や口蹄疫などの影響によって大変な状況だが、明るいこの作品を見ると元気を取り戻せるような気がした。

この中学生の命名したタイトルを作者の子どもたちに見てもらい、あらためて感想を述べてもらった。

3) 図工「線を集めて」中学生の意見に対しての児童の感想

作品

中学生のタイトルを見ると、自分自身も「そうかぁ」「なるほど!」と思った。色や形のことも書いてあり、自分が気付かなかったことが書いてあった。伝わっているけど、自分の考えと違った。

作品

「テント」という題名を見て、見方を少し変えるだけで「テント」などにも見えるんだなと思いました。

「心」という題名を見て私はもともと「ハート」をイメージしてつくっていたのでつながっていてうれしかったです。

作品

「未来へのかけ橋」という表現がぴったりで私にもそのように見えてきた!いろいろなモー

ルをつかったところから「クリスマスツリー」という表現がされてびっくりした。

作品

私は、針金の色はあまり気にせずにつくっていたけど「虹」や「レインボー」「未来」という幻想的な言葉を使っていることにおどろいた。私も「橋」という作品を想像したが、向きが違うこともおどろいた。

作品

お好み焼きはなるほどなと思いました。ろうやという意見は、私も作りながら考えていた意見でした。ピラミッドの事を考えていた人がいてうれしかったです。UFOは見ているとUFOに見えてきて、なるほどなと思いました。タイの事も考えていてすごい。

作品

「未完ジャングルジム」で、不安定なのはたて方にもよると思いました。

「山」はちょっと地味に感じたけど、理由は「見ているだけで楽しくなれる」というのに、すごくあっていると思いました。

作品

「門」や「カラフル」といったキーワードは同じだが、それをどのよに想像するかがちがった。また、「夢」で想像しても、いろいろな見方で、また作品が変わってきたかもしれない。想像のもととなる部分がちがっていてとてもおもしろい。広い見方をされてよかった。

作品

全くクリスマスイメージしていなかったけれど、バランスやかざりつけから、クリスマスイメージするなんて思ってもいなかった。自分の工夫したところをしっかりと見てもらえ、その工夫をちがう方向から見てもらいおもしろいと思った。

作品

中学生のタイトルを見ると「何これ」という意見があり、すごかった。「がんばろう宮崎」などのタイトルがあり、中3はすごいと思った。

4. おわりに

鑑賞される作品は作者の手を離れて、見る者によって自由につくられていく。この実践を通して、見るという活動について改めて、そのことが確認できた。今回の幼・小・中をとおした鑑賞の学習により、子どもたちの見方・感じ方は確実に深まっていったようだった。

共同学習を通して、今後の課題と成果は以下のような点があげられる。

【成果】

(自分が制作した作品の)表現の意図について中学生がいろいろと話し合った内容を聞くことで、表現の過程での自分の思いをふり返りながら、改めて自分の作品に対する思いを高めることができた。

幼稚園生が作品を何かに見立てる姿を見たり、中学生がつけた題名や感想を聞いたりしたことで、自分では思ってもいない見方や感じ方を知り、鑑賞する喜びや面白さを感じることができた。

【課題】

発達の段階に応じた鑑賞の活動における言葉かけの在り方について、さらに研究を深める

必要がある。

今回は5年生を対象に中学生や幼稚園生とのかかわりについて研究したが、他の学年や中学生、幼稚園生を対象に幼小中連携を考えた鑑賞の在り方を考える必要がある。

参考文献

- 1) 「平成21年度研究紀要 確かな学びのある授業の創造 - 豊かに表現し合い高め合う学習の展開(4年次)」宮崎大学教育文化学部附属小学校研究部編(平成22年2月発行)40-41頁